

C-9) 小児胸腺腫 typeB1 の 1 例

吉田 牧子¹⁾, 今井 幸弘³⁾, 連 利博⁴⁾, 赤坂 好宣²⁾, 山口 善道²⁾, 橋村 宏美²⁾

症 例

11 歳, 女児. 手術の 1 か月前頃から咳嗽, 微熱あり, 近医受診, 胸部 X 線にて縦隔の異常陰影を, CT にて前縦隔に胸腺に接する腫瘤を認められ, 精査加療目的にて当院受診. 胸腔鏡下の迅速の後, 開胸腫瘍摘出術が施行された.

病理所見

胸腺内の被膜を有する腫瘍及び, 複数個の腫瘍のみの断片が提出された. 腫瘍には網目状や一部島状に配列する上皮成分の間にリンパ球が豊富な皮質成分と, ハッサル小体を含み上皮及びリンパ球は疎な髓質成分が認められた. ハッサル小体の分布や密度は非腫瘍胸腺と類似していた. 腫瘍内に脂肪滴が散見された. 上皮細胞は多角形で類円形核を有し, 免疫染色にてケラチン陽性, 核分裂像や MIB-1 陽性細胞はほとんど見られなかった. 皮質のリンパ球は免疫染色にて CD1a, UCHL-1, CD99, MIB-1 陽性であった. 髓質成分の上皮は小型で結合性が弱く, リンパ球は CD1a, UCHL-1, CD99, MIB-1 陰性であった. 皮質成分と髓質成分が認められ B1 と診断されるが, 皮質部分は通常の B1 thymoma より上皮が豊富で B2 的であった.

考 察

胸腺腫は小児縦隔腫瘍の 1 % という報告もあり稀である. stage II と考えられ, 無治療で密な経過観察とされた.

謝 辞

診断にあたり御教示頂いた東京医科大学病理診断学, 向井 清先生, 治療方針に関して御助言頂いた徳島大学外科, 近藤和也先生に深謝申し上げます.



図 1 HE 染色, 分葉状の非腫瘍性胸腺と線維性被膜で境される腫瘍が認められる. 腫瘍には散在性の脂肪沈着とハッサル小体が認められる.

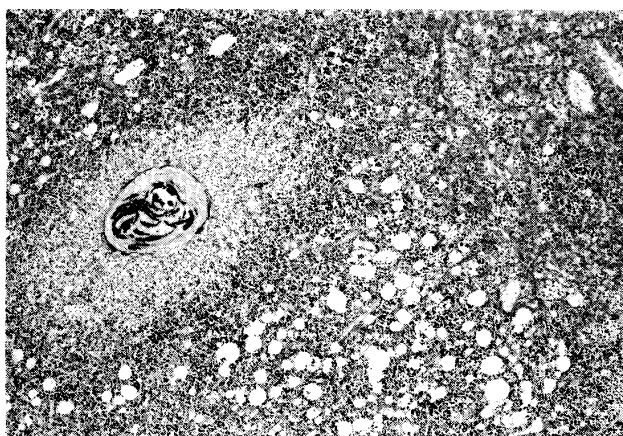


図 2 ケラチン免疫染色, 網目状に上皮が配列した皮質への分化を示す部分と, ハッサル小体を有し上皮成分の疎な髓質への分化を示す部分が認められる.

文 献

- 1) WHO classification tumours of the lung, pleura, thymus and heart. IARC Press, 2004
- 2) Rothstein DH, et al: Thymoma in a child: case report and review of the literature. Pediatr Surg Int 21:548-551, 2005

1) 兵庫県立こども病院 検査・放射線部病理室

2) 同 放射線科

3) 神戸市立医療センター中央市民病院 病理

4) 茨城県立こども病院 外科